



オーナーズ マニュアル

CROMWELL 125/SUNRAY 125/FELSBURG 125/FELSBURG 125 XC /RAYBURN 125

日本語



Type: BX125 / Version 1.1 / 01 June 2020

BRIXTON
MOTORCYCLES

この度はBRIXTON製品（車両）をご購入いただきまして誠にありがとうございます。このオートバイは、安全性、耐久性に優れ、日々のストリートユースに最適なモデルとしてご使用いただけます。個性的なスタイルと、ユニークなデザインが、ライダーのセンスを引き出し、乗る人を時代の先端へといざないながら、尽きることのない探求心を刺激してくれることでしょう。

オートバイに乗ることは、非常に魅力的なスポーツをすることである、とも言えます。ライディングを最大限にお楽しみいただくためにも、初めて本車両にお乗りいただく前に、必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みいただきますようお願い申し上げます。

このオーナーズマニュアルには、お客様の車両の適切なお手入れとメンテナンス方法が記載されています。お客様の車両をより長く、安全に故障なくご使用いただくためにも、このマニュアルの説明事項を守っていただきますようお願いいたします。また、点検・修理の際は、BRIXTON正規販売店にてサービスを受けていただきますようお願い申し上げます。

本マニュアルに記載の情報・図・データ等は、本書作成当時の製品情報に基づいております。その後の車両の改良などにより、一部の情報がお客様の車両に正しく反映されない場合がございますのでご了承ください。



マニュアル内、重要事項について

本書では特に注意していただきたい情報について、次のように表記しています：

▲ 警告 ▲

この表示は、必ず守っていただきたい「警告」の表示です。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡また重傷を負う事故につながる可能性がある内容であることを示しています。

注意

「注意」は、車両の損傷を避けるための特別な注意事項を示しており、本書内の重要な情報の記載であることを示しています。

注意

車輛を売却される場合も、本書はメンテナンス/サービス記録として必ず車両に添付してください。メーカーによる車輛の継続的な改良により、本書を作成当時の情報と実際の車両との間に差異が生じることがございます。本書、あるいは実際の車両に関するご質問は、BRIXTON正規販売店までお問い合わせいただきますようお願いいたします。

▲ 警告 ▲

本書に記載されている内容は、お客様の安全のためのものです。車両を操作する前に、必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みいただくようお願いいたします。公道での走行は、お住いの地域の法律に従った適正な免許証をお持ちの方で、車両の操作方法や使用について熟知している方が運転してください。安全に末永くお乗りいただくためにも、適切にメンテナンスを行い、交通ルールに従って安全にお乗りいただくようお願いいたします。

* 製品および、仕様は予告なく変更されることがございます。



目次

はじめに	3	左ハンドルバー	17
マニュアル内、重要事項について	4	右ハンドルバー	18
目次	6	燃料タンク	19
安全にお乗りいただくために	8	シフトチェンジペダル	20
心掛けていただきたいこと	8	リアブレーキペダル	20
日常点検と定期メンテナンス	8	サイド/メインスタンド	20
安全にお乗りいただくために	8	シート	21
ライディングに適した服装	9	シートの取り外し方	21
改造	9	シートの取り外し方 (Sunray125)	21
積載	9	ブレーキシステム	22
アクセサリーについて	9	コンバインドブレーキシステム(CBS)	22
燃料と排気ガスについて	10	アンチロックブレーキシステム(ABS)	22
駐車	10	乗車前点検	24
より安全にお乗りいただくために	10	乗車前点検リスト	25
車両概要	11	運転の仕方と乗車時の注意	26
車両各部 (全モデル)	11	エンジンを始動する	26
車両各部 (Sunray125)	13	発進	26
車両各部 (Felsberg125)	13	ギアチェンジの仕方	26
車両各部 (Felsberg125XC)	14	加速/減速	27
車両各部 (Rayburn125)	14	ブレーキ	27
車両識別情報	15	エンジンを停止/駐車	27
車両識別番号/車台番号 (VIN)	15	慣らし運転	28
パネルとコントロール系の操作	16	定期点検と簡単な修理	29
コントロールパネル	16	スパークプラグ	29
メインキー	17	スパークプラグの点検	29
ハンドルロック	17	エンジンオイル	30

エンジンオイル点検	30	バッテリー	39
オイル交換	31	バッテリーの充電	39
燃料フィルター	31	バッテリーの保管	39
エアフィルター	31	ヒューズ	40
ECU (エンジンコントロールユニット)	32	ヒューズ交換	40
スロットルケーブルの遊び	32	灯火類	40
スロットルケーブルの遊びの調整	32	ヘッドライト	40
クラッチの遊び	33	ウィンカー/テール/ブレーキライト	40
クラッチの遊びの調整	33	ナンバープレートライト	40
タイヤ	33	トラブルシューティング	41
タイヤ空気圧	33	トラブルシューティングチャート	42
タイヤ点検	34	洗車と保管	43
リム	34	洗車	43
ブレーキ	35	洗車をする前に	43
ブレーキの遊び	35	日常のお手入れ	43
ブレーキパッド	35	雨天、海岸、塩分のある道路を走行後の洗車	43
ブレーキフルード	36	洗車後	43
ブレーキフルードの交換	36	保管	44
ケーブル	37	短期間 (数日間)	44
スロットルグリップとケーブル	37	長期間 (数週間)	44
ブレーキレバーとブレーキペダルの潤滑	37	防錆	44
サイド/メインスタンド	37	仕様	45
フロントフォーク	37		
ステアリング	38		
ホイールベアリング	38		
ドライブチェーン	38		
ドライブチェーンの張り	39		

安全にお乗りいただくために

心掛けていただきたいこと

このオーナーズマニュアルを、走行前によくお読みいただき、車両の適切な操作方法や特徴、能力について十分に理解するようにしてください。また、本書は、車両を安全に運転するために必要な技術や技能のすべてを記載・説明するものではありません。

BRIXTONでは、すべてのライダーが安全に車両を運転することができるように、ライダーには適切な訓練やトレーニング、あるいはスクールの受講を推奨しています。

日常点検と定期メンテナンス

オートバイを正しく整備し、安全に運転できる状態に保つことはとても重要なことです。

毎走行前には必ず正しく走行前点検を行い、適宜、必要とされる整備作業を実施してください。

定期メンテナンス等の詳細は、「メンテナンスと修理」の項を参照してください。

BRIXTON正規販売店では、車両を熟知したスタッフが適切な工具と純正部品を用意してお待ちしています。ライダーの安全を最大限に確保するためにも、定期メンテナンスは必ずBRIXTON正規販売店に依頼するようお願いいたします。

安全にお乗りいただくために

- 乗車前の事前チェックは、事故を未然に防ぐためにも非常に重要です。
- 運転者や同乗者、また、荷物の最大積載制限を守ってください。
- 2輪車の事故の大半は、4輪車からの見落としにより起こるとされています。公道走行において、適切な範囲内において目立つ工夫をすることは、このような事故を減らすためにも有効とされています。
- 明るい色で、ライダーの身体を守るウェアを着用してください。
- 曲がるときは必ずウィンカーを適切に作動させ、また、交差点に差し掛かるときや通過する際は、適切にスピードをおとして徐行するよう心掛けてください。

- 他の車両と常に適切な車間距離を保ち、目つ、自身の位置を相手に認識させるようにしましょう。
- 自身の運転スキルや限界をよく知るようにしましょう。
- ライディングに適さない人や運転資格のない人には絶対に車両を貸さないでください。
- 常に法定速度を守り、交通法規を遵守するようにしましょう。
- 車輛を適切に、バランスよくコントロールするためには、同乗者を含めたライダーの正しい運転姿勢が重要です。
- 走行中、ライダーは両手をハンドルバーに、両足はフットレストに置き、シートに対してまっすぐに座るようにしてください。
- 同乗者は、同乗者用フットレストに両足をかけた状態で、クラブハンドルや運転者にしっかりとつかまることが出来るよう確認してください。
- アルコール摂取後や、薬物使用下での運転は固く禁じられています。
- この車両はストリート（公道）走行用に設計されていますので、サーキットのような公道外での使用には適していません。

安全にお乗りいただくために

ライディングに適した服装

事故の際に身を守ることができる、プロテクション機能のある服装でライディングを楽しみましょう。

- 走行中、異物や雨滴から目を保護するために、必ずフェイスシールド付きの公認ヘルメットを着用してください。
- 万が一の事故の際、怪我の程度を軽減するためにも、適切な上着、靴、手袋などを必ず着用してください。
- ダブつきのある（ゆったりしすぎる）服装は、操作レバーや車輪などに引っかかる可能性がありますので、絶対にやめてください。
- エンジンや排気系のパーツは、運転中や運転直後は非常に熱くなりますので、絶対に触れないようにしてください。
- やけどを負う恐れがありますので、常に足、足首等を覆える服装でお乗りください。

改造

不正な改造をほどこしたり、純正パーツを取り外して乗ることは、車両の安全性をそこなうことになり、事故につながる恐れがあります。また、改造車に乗ることは、違法行為につながりますので絶対にやめましょう。

積載

運転者、同乗者（同乗可能な車両の場合）、付属品、貨物等の合計重量は、最大積載量を超えてはなりません。

決められた重量制限内で積載する場合も、以下の点に注意してください：

- 積載荷物（または取り付けるアクセサリー）の重量の重心は、できるだけ低い位置、車両に近い場所に置いてください。また、できるだけ左右均等に配分してバランスを取り、不安定さを最小限に抑えるようにします。
- 積載荷物やアクセサリーが、車両にしっかり固定されていることを確認してください。
- ハンドル操作の妨げになり、安全走行に支障をきたす恐れがあるので、ハンドルバー、フロントフォーク、フロントフェンダーに、大きな物や重い物は絶対に取り付けしないでください。

アクセサリーについて

アクセサリー類は、この車両用に特別に設計された純正アクセサリーがあります。詳しくはBRIXTON正規販売店にお問い合わせください。メーカーは、市販されているすべての非純正品アクセサリーについて検査することはできません。非純正アクセサリーの取り付け、使用につきましては、お客様ご自身の責任で行ってください。

アクセサリーを装着する際は、次の点にご注意ください：

- シート高や車両の高さそのものに影響を与えるようなアクセサリーの取り付けや荷物の運搬、またサスペンションの走行制限になるような取り付け方、ステアリングやライト、リフレクターが隠れるような取り付け方などは絶対にしないでください。
- この車両は、オンロード（舗装路）での走行を目的として作られていません。横風を受けると非常に不安定になり危険ですので、無理に積載を高めるために、大きなキャリアを取り付けたりしないでください。

安全にお乗りいただくために

- 電装品アクセサリー等を取り付ける際は、車両の電気系統の容量を超えないように注意してください。不適切な取り付けは電気系統の故障、エンジン出力の低下、または車両の破損の原因にもなります。取り付けの際は、必ずBRIXTON正規販売店にご相談ください。

燃料と排気ガスについて

▲ 警告 ▲

ガソリンは可燃性の高い液体です！

- 給油の際は、必ずエンジンを切ってください。
- 給油中、エンジンやマフラーなど高温になっている部分に、ガソリンをこぼさないよう注意してください。
- 給油中に煙草を吸ったり、携帯電話を使用しないでください。
- 閉め切った場所でエンジンをかけたり、長時間運転させないでください。

- 排気ガスには毒があり、多量に吸い込むと短時間で意識を失い、死に至ることがあります。
- 車両から離れるときは、必ずエンジンを切り、鍵を取り外してください。
- ガソリンに水が入らないよう、また皮膚に直接触れないよう注意してください。万が一、ガソリンを飲み込んだり目に入った場合は、すぐに医師の診断を受けてください。

駐車

車両を駐車するときは、次のことに注意してください：

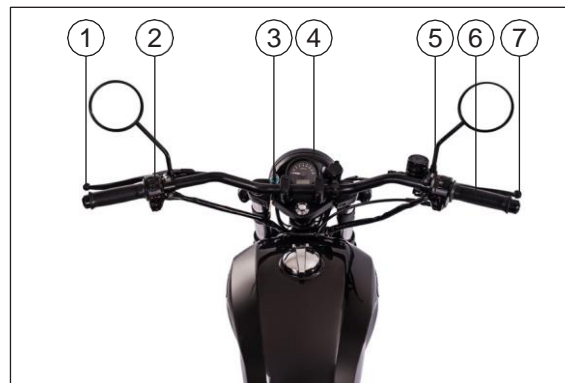
- 走行直後は、エンジンやマフラーは高温になっています。歩行者や子供、動物等が触れて火傷をしないよう注意してください。
- 車両が倒れる恐れがあるので、傾斜地や、地面が柔らかい場所には駐車しないでください。
- 可燃性の高い場所やその近くに、車両を駐車しないでください。

より安全にお乗りいただくために

- 必ずウィンカーを点灯させてから曲がります。
- 雨天時や濡れた路面では、急ブレーキを避け、スピードを抑えて走行します。
- 予期せず、突然ドアが開くかもしれません。駐・停車している車の横を追い越す際は十分に注意しましょう。

車両各部 (全モデル)

1. クラッチレバー
2. 左ハンドルバースイッチ
3. メインキー
4. メーターパネル
5. 右ハンドルバースイッチ
6. スロットルグリップ
7. フロントブレーキレバー



8. フロントタイヤ
9. フロントブレーキキャリパー
10. フロントウィンカー
11. シフトチェンジペダル
12. エアフィルターエレメント
13. バッテリー
14. タンデムステップ
15. リアタイヤ
16. リアウィンカー
17. テールライト



車両概要

- 18. マフラー
- 19. リアブレーキ
- 20. シート
- 21. メインスタンド
- 22. ステップ
- 23. 燃料タンク
- 24. 燃料タンクキャップ
- 25. ミラー
- 26. ヘッドライト
- 27. リフレクター
- 28. フロントフェンダー
- 29. フロントブレーキディスク



車両各部 (SUNRAY 125)

- 30. シートカバー
- 31. ミラー



車両各部 (FELSBERG 125)

- 32. ウィンドシールド



車両概要

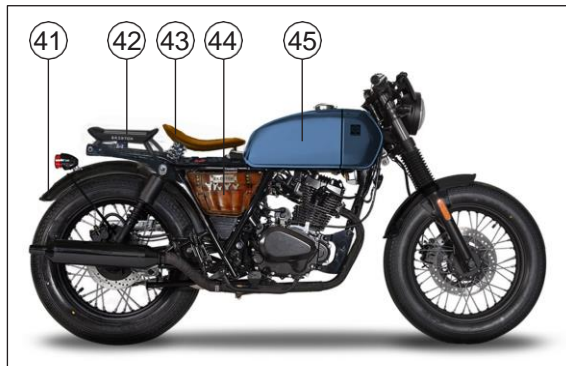
車両各部 (FELSBURG 125 XC)

- 33. リアサスペンション
- 34. メインスタンド
- 35. サイドスタンド (車両左側)
- 36. 燃料タンク
- 37. エンジンガード
- 38. クロスバー
- 39. フロントサスペンション
- 40. フロントフェンダー



車両各部 (RAYBURN 125)

- 41. リアフェンダー
- 42. リアキャリア
- 43. シート
- 44. サイドバッグ
- 45. 燃料タンク



車両識別番号（車台番号）/VIN

部品の注文や修理を依頼する際、あるいは万が一車両が盗難にあった時のために、VIN（車両識別番号/車台番号）は必ず控えておくようにしてください。

車両識別番号は、ステアリングヘッドに刻まれています(1)。改ざん防止ラベルは、その左側にあります(2)。

エンジン番号は、車両左側のエンジンケースに刻まれています(3)。

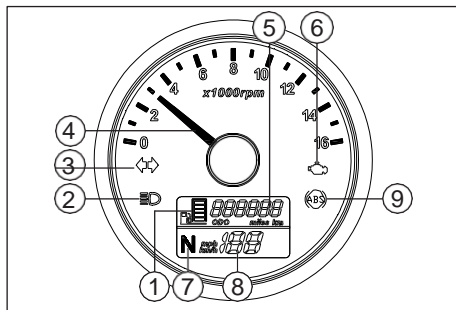
注 意

車両識別番号は、お客様の車両を識別するための非常に大切な番号です。お住いの地域の登録局にて車両を登録する際に必ず必要となります。



パネルとコントロール系の操作

コントロールパネル



1. 燃料残量計

燃料タンク内の燃料残量を表示します。燃料が満タンの時はバーが5本表示されます。燃料レベルが最低になると、バー1本が点滅します。速やかに燃料を補給してください。

2. ハイビームインジケーター

ヘッドライトがハイビームになると、インジケーターライトが点灯します。

3. ウィンカーインジケーター

左右のウィンカースイッチを入れると、連動してウィンカーインジケーターライトが点滅します。

4. タコメーター

エンジンの回転数を0~16×1000rpmまで表示します。

5. オドメーター

総走行距離(ODO)は、移動した総距離を記録して表示します。

6. オンボード・ダイアグノーシス(EOBD)/自己診断機能

スイッチオンにして電源が入ると、EOBDインジケーターが点灯し、エンジンを始動すると数秒後に自動的に消灯します。もし消灯せず点滅を繰り返す場合は、いずれかの故障の可能性があるので点検が必要です。専用の故障診断機での確認が必要となりますので、お近くのBRIXTON正規販売店にご相談ください。

7. ニュートラルポジションランプ

ギヤがニュートラルポジションにあるとき、ポジションランプが点灯します。

8. スピードメーター

車両の走行速度を表示します。メインキーを連続2回オン・オフ、オン・オフと操作することで、単位をマイル表示(mph)又はキロ表示(km/h)に変えることができます。

9. ABS 警告灯

メインキーをオンにすると、ABS警告灯が点灯します。走行を開始後、時速約5kmに達するとABS警告灯は消灯します。走行中に警告灯が点灯したり、点滅したりする場合は、ABSに異常があると考えられます。ABS警告灯が点灯または点滅している間は、ABSは正常に作動しません。この場合でもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキなどはできるだけ避け、速やかにBRIXTON正規販売店に連絡してABSの点検を行ってください。

パネルとコントロール系の操作

メインキー



時計回りにキーを回すと電源が入り、エンジンをスタートさせることができます。この時、キーを抜くことはできません。

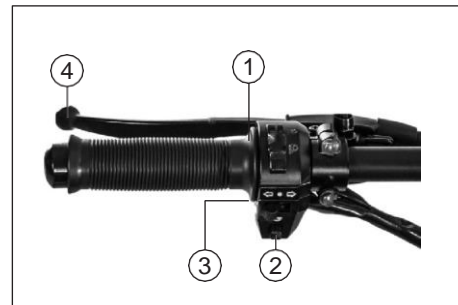
反時計回りにキーを回すと、電源が消え、エンジンをスタートさせることはできなくなります。この時、キーは抜きとることができます。

ハンドルロック





ハンドルの右側下部のハンドルロックにキーを差し込みます。ハンドルを左側にきって、ハンドルロックに差し込んだキーを反時計回りに回転させ、赤い点の位置まで回すと、ハンドルはロックされ、キーを抜くことができます。

左ハンドルバー



1. ハイビーム、ロービームスイッチ

このスイッチが  になっているときは、ヘッドライトがハイビームになっています。

スイッチを  の方へ押すとロービームに切り替わります。街中を走行中、対向車がいる場合は、対向車のドライバーの視認をさえぎらないよう、ロービームで走行しましょう。

パネルとコントロール系の操作

2. ホーンボタン(左ハンドル)

ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

3. ウィンカースイッチ(左ハンドル)

- ・ウィンカースイッチを左に押すと (3), 左ウィンカーが点滅し、同時にメーターパネル内で緑色のインジケーターが点滅します。
- ・ウィンカースイッチを右に押すと(3), 右ウィンカーが点滅し、同時にメーターパネル内で緑色のインジケーターが点滅します。
- ・ウィンカーを消灯させるときは、ウィンカースイッチを真ん中に戻します。

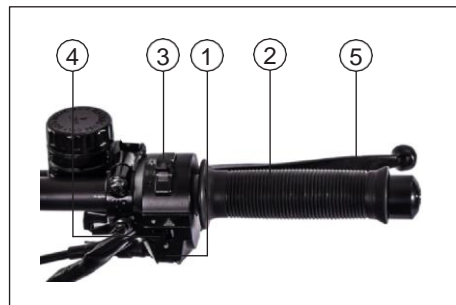
4. クラッチレバー(左ハンドル)

エンジンをスタートさせる時、また、ギヤを変える際にはクラッチレバーを握って、確実にクラッチを切ってから操作してください。

▲ 警告 ▲

車線変更や、右左折の際は適切なタイミングで必ずウィンカーを点滅させましょう。変更後や右左折後は、速やかに消灯させてください。不必要なウィンカー点滅は、他車を困惑させ非常に危険です。

右ハンドルバー



1. エンジンスタートボタン

ボタンを押すと、セルモーターが作動しエンジンが始動します。

2. スロットルグリップ

エンジンの回転数を上げることができません。グリップを自分の方向に回すと速度が上がります。速度を落とすには、自分と反対方向に回し(戻し)ます。

3. ヘッドライトスイッチ(ディスプレイ)

スイッチを ☸ の位置にすると、デイタイムライト、テールライト、ナンバープレートライトが点灯します。スイッチを ☼ の位置にすると、デイタイムライトは消え、ヘッドライト、前後のパーキングライト、ナンバープレートライトが点灯します。

4. ハザードランプスイッチ

スイッチを ▲ の位置にすると前後左右のウィンカーが点滅し、同時にメーターパネル内の緑色のインジケーターランプも点滅します。スイッチを ● の位置に戻すと、前後左右のウィンカー点滅、メーターパネル内のインジケーターランプの点滅も消灯します。

5. フロントブレーキレバー(右ハンドル側)

フロントブレーキです(レバーをにぎります)。急ブレーキは避け、できるだけ余裕をもってかけるようにしましょう。

燃料タンク



給油キャップの中央のプレートをゆっくりと引き上げてから、キーを鍵穴に差し込んで時計回りに回し、給油キャップを開けます(1)。閉める際は、ガイド(キャップ裏側の突起部)を合わせて、キャップを押し下げながらキーを反時計回りに戻して閉めます。キャップ中央のプレートをゆっくりと下げて元の位置に戻します。

▲ 警告 ▲

燃料は過剰に満タンにしないでください。給油口入口の、下部の縁を超えないように注意しましょう。

オートバイの故障や、事故につながる恐れがあるため、エンジン部分や機器類にガソリンをこぼさないように十分気を付けてください。

給油の際は、必ずエンジンを止め、メインキーをオフにしてください。

燃料の蒸発や事故を防ぐため、給油後はキャップをしっかりと閉めてください。

給油中は絶対に喫煙しないでください。

万が一、ガソリンがカーボンキャニスターに入り込んだ場合、キャニスター内の活性炭が効かなくなる恐れがありますのでできるだけ速やかに、BRIXTON正規販売店で、洗浄、あるいは交換を行ってください。

タンク内への水分の侵入を防ぐため、常にキャップの密閉性が適切であるか、確認してください。

無鉛ガソリン限定
RON/ROZ min.95

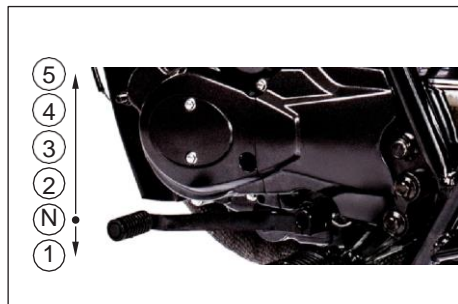
E5

!! 注意 !!

バイオエタノールE10は
適合しません

パネルとコントロール系の操作

シフトチェンジペダル



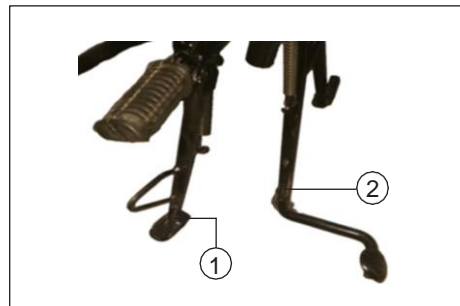
この車両は5速ギアシフト（リターン式）を搭載しています。ニュートラルは、1速と2速の間に位置しています。ニュートラル位置からシフトチェンジペダルを押し下げると1速に入ります。ペダルを上引き上げると、次のギアにシフトアップします。シフトダウンするときは、もう一度ペダルを押し下げます。変速機の構造上、一度にシフトできる変速は1段階のみです（一度に2段階以上の変速はできません）。

リアブレーキペダル



リアブレーキペダルを押し下げると、リアブレーキがかかり、同時にブレーキライトが点灯します。

サイド&メインスタンド



サイドスタンド (1) は、車両の左側にあります。車両を駐車させる時は、サイドスタンドを押し下げてかけます。サイドスタンドを下げると、サイドスタンドスイッチが連動して、エンジンがストップします。そのままでは、エンジンがかかりませんので、サイドスタンドを引き上げて外してからエンジンをスタートさせてください。

メインスタンド (2) は、車両の下に付いています。駐車時、メインスタンドを立てるときは、メインスタンドを押し下げながら、車両を後方に引くようにして立てましょう。

シート

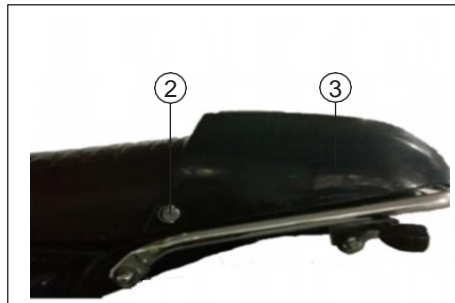
シートの取り外し方

1. メインスタンドを立てて、車両を駐車させます。
2. シートを固定しているボルトを外します (1)。
3. シートを取り外します。
4. 取り付ける際は、逆の手順で取り付けます。



シートの取り外し方 (Sunray 125)

1. メインスタンドを立てて、車両を駐車させます。
2. (2) のシートカバーボルトを外します。
3. シートカバーを外します (3)。
4. (1) のシートボルトを外します。
5. シートを取り外します。
6. 取り付ける際は、逆の手順で取り付けます。



パネルとコントロール系の操作

ブレーキシステム

車両により、必ず**CBS** (コンバインド・ブレーキ・システム) か**ABS** (アンチロック・ブレーキ・システム) のどちらかが搭載されています。

コンバインド・ブレーキ・システム (CBS)

CBS (コンバインド・ブレーキ・システム/複合ブレーキシステム) は、前後輪のブレーキを連動させてかけ、制動力の配分を自動的に適正化して、制動時の安定性を確保するシステムです。

CBS(シングルタイプ)搭載の車両は、リアブレーキをかけたときに作動し、前後ブレーキが連動して同時にかかります。そのため、制動時の車両の安定性がより高まります。

▲ 警告 ▲

リアブレーキをかけることで、前後両ブレーキが作動して制動時安定性が高まりますが、それでもなお、フロントブレーキは丁寧に操作するようにしてください。

アンチロック・ブレーキ・システム (ABS)

ABS (アンチロック・ブレーキ・システム) は、ブレーキを強くかけたときに、車輪がロックしないようにするためのものです。ABS は、フロント、リア、それぞれ別々の回路によって作動し、ABS センサーが車輪のロックを感知すると、小刻みにブレーキの解除・作動を繰り返しながらタイヤのグリップ力を元に戻し、最大限の制動力を発揮できるよう調節をしてくれます。ABSが作動すると、フロントブレーキレバーやリアブレーキペダルに小さな振動が生じます。

ABS搭載の車両でも、普段のブレーキのかけ方が特別違うということはなく、フロントブレーキレバーはフロントブレーキを、リアブレーキペダルはリアブレーキを作動させ、従来のオートバイとなんら変わりはありません。

ABS は、車輪のロックを防ぐことで停止時の安定性を提供するものですが、次のような特徴があることを忘れないでください。

- ABSは、悪路（コンディションの悪い道路）、ライダー自身が状況判断を誤った場合、または不適切なブレーキのかけ方を補償するものではありません。ABSを搭載しているからと過信せず、非搭載の車両同様に注意してください。
- ABSは制動距離を短くするためのものではありません。ぬかるんだ路面や凸凹路面、下り坂では、ABS搭載車両の方が非搭載車両に比べて停止距離が長くなる場合がありますので、十分に気を付けてください。
- ABSは、直進時の車輪のロックを防ぐのに役立ちますが、コーナリング中のブレーキによって引き起こされるタイヤのスリップは制御することが出来ません。コーナリング中（カーブを曲がっている最中）は、前後ブレーキを軽くかける程度にとどめるか、あるいはかけないようにしましょう。

コーナー（カーブ）に差し掛かる前は、十分に速度を落としましょう。
- ABSは、内蔵されたコンピューターによって、車速と車輪速度を比較することにより制動のコントロールを行っています。そのため、メンテナンスされていないタイヤだと正しいホイールスピードが測定できずにコンピューターを混乱させ、制動距離が長くなる可能性があります。

乗車前点検

車両のコンディションを管理するのはオーナーの責任です。運転者は、車両の状態が良好であるか確認するため、毎乗車前には必ず簡単な点検を行ってください。

重大な事故や故障を防ぐためにも、必ず重要な部位の点検を行ってください。乗車前には、以下の点をよくご確認ください。

注 意

乗車前点検は、毎乗車時に行うようにしましょう。この乗車前点検は、短時間で行うことができるものですので、ライディング時の安全性を確保するためにも、必ず行ってください。

▲ 警 告 ▲

乗車前点検で、正しく動作していない箇所が見つかった場合は、ご乗車になる前に必ず修理を行うようにしてください。お客様自身で修理できない不具合箇所の場合は、BRIXTON正規販売店にて修理を行いましょう。

乗車前点検リスト

点検箇所	検証項目
燃料	<ul style="list-style-type: none"> 燃料タンク内のガソリン残量を確認しましょう。 必要であれば給油します。 燃料パイプなどからの漏れがないか確認します。
エンジンオイル	<ul style="list-style-type: none"> オイルレベルを確認します。 必要であれば、推奨オイルを規定のレベルまで補充します。 オイル漏れがないか確認してください。
フロントブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキレバーを握って、動作の確認をします。 握った感覚が曖昧、またはスポンジのように柔らかい場合は、油圧システムのオイル漏れの可能性があります。販売店に点検・修理を依頼してください。 ブレーキパッドの摩耗状態を点検します。摩耗している場合は交換しましょう。 リザーバ内のブレーキ液レベルを確認します。必要に応じて、規定レベルまでブレーキ液を補充してください。 油圧システムからの漏れがないか、確認します。
リアブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏んで、動作の確認をします。 踏み込んだ感覚が曖昧、またはスポンジのように柔らかい場合は、油圧システムのオイル漏れの可能性があります。販売店に点検・修理を依頼してください。 ブレーキパッドの摩耗状態を点検します。摩耗している場合は交換しましょう。 リザーバ内のブレーキ液レベルを確認します。必要に応じて、規定レベルまでブレーキ液を補充してください。 油圧システムからの漏れがないか、確認します。
スロットルグリップ	<ul style="list-style-type: none"> グリップを手前に回転させ、動作がスムーズであるか確認をします。 スロットルグリップの遊びが適切であるか確認します。 異常が見られる場合は、販売店にて遊びや潤滑等の修理・調整をしてください。
ホイールとタイヤ	<ul style="list-style-type: none"> 損傷が見受けられないか確認をします。 タイヤ溝の摩耗は規定値以内であるか、全体の状態も含めて確認します。 タイヤ空気圧は適正であるか確認します。
ブレーキレバーとペダル	<ul style="list-style-type: none"> 動作がスムーズであるか確認します。必要に応じて、連結部（ジョイントなどの可動部）への潤滑を行ってください。
メインスタンドとサイドスタンド	<ul style="list-style-type: none"> 動作がスムーズであるか確認します。必要に応じて、連結部（ジョイントなどの可動部）への潤滑を行ってください。
シャシーの留め具	<ul style="list-style-type: none"> シャシーの留め具（ナット、ボルト、スクリュー）の締結を確認します。
メーターパネル、灯火類、ウィンカーやスイッチ類	<ul style="list-style-type: none"> 表示、動作が正常であるか確認し、必要に応じて修正・修理をしてください。

運転の仕方と乗車時の注意

▲ 警告 ▲

車両についての操作方法やその機能について、ご購入前によく理解し熟知するようにしましょう。

不明点や気になることがある場合はそのままにせず、BRIXTON正規販売店にご相談ください。

排気ガスには毒性があり、多量に吸い込むと意識を失い、短時間で死にいたることもあります。閉め切った空間(換気の悪い状況)で、エンジンをかけることはしないでください。

エンジンを始動する

注意

ご購入後、初めて車両に乗る際は、必ず「慣らし運転」が必要です。

1. メインキーをオンにします ()。
2. サイドスタンドを外します。
3. ギアをニュートラルに入れます。
4. フロントまたはリアブレーキレバーを握ります。
5. エンジンスタートボタン (⊕) を、2～3秒押します。

注意

いかなる場合でも、5秒以上スターターボタンを押し続けしないでください。再度、エンジンの始動を試みる場合は、数秒、間をおいてから行うようにしてください。繰り返しの試行や、長押しは、スターターモーターやバッテリーに負担をかけますので、できるだけ避けましょう。

発進

注意

エンジンを痛めないように、発進前には暖気運転をしてください。

1. シートにまたがって座り、ミラーを調整（自身が見やすいよう）しましょう。
2. 発進後に向かう方向のウィンカーを点滅させます。
3. クラッチレバーを握って引きます。
4. ギヤを1速に入れます。
5. 後方車や対向車をよく確認します。
6. クラッチレバーをゆっくりと離しながら、同時にスロットルをゆっくりと開けます。
7. ウィンカーの点滅を止めます。

ギアチェンジの仕方

a) ギアを上げる

1. スロットルを戻します。
2. クラッチレバーを引きます。
3. ギアチェンジペダルを上へ引き上げ、高いギアにチェンジさせます。
4. クラッチレバーをゆっくりと離しながら、同時にスロットルをゆっくりと開けます。

b) ギアを下げる

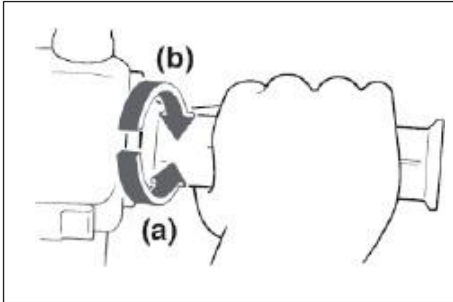
1. スロットルを戻します。
2. ブレーキをかけて、適宜、速度を落とします。
3. クラッチレバーを引きます。
4. ギアチェンジペダルを下へ押し下げ、低いギアにチェンジさせます。
5. クラッチレバーをゆっくりと離しながら、同時にスロットルをゆっくりと開けます。

▲ 警告 ▲

トランスミッションが損傷を受ける恐れがあるので、ギアチェンジは1段階ずつ行いましょう。

運転の仕方と乗車時の注意

加速 / 減速



スロットルの開け閉めの加減で、速度を調節します。速度を上げるときは、スロットルグリップを (a) の方向へ、速度をゆるめるときは、スロットルグリップを (b) の方向に回します。

ブレーキ

1. スロットルを戻します。
2. ゆっくりとクラッチレバーを引き始めます。
3. 同時に、フロント・リアブレーキをかけます。

▲ 警告 ▲

タイヤがスリップする恐れがありますので、急ブレーキはできるだけ避けるようにしましょう。

線路や横断歩道、路面電車の線路や工事現場の鉄板、マンホールなどは、雨天時にとても滑りやすくなります。

そのような場所を通過する際は、速度を落とし十分注意しながら走行してください。

濡れた路面でのブレーキはより危険が多いということを忘れないようにしましょう。

下り坂でのブレーキも、平坦な路面に比べて危険です。濡れた路面同様に、十分注意してください。

エンジンを停止 / 駐車

1. スロットルを完全に戻します。
2. クラッチレバーを握って引きます。
3. ギアを **N**-ニュートラルに入れます。
4. ブレーキをかけます。
5. 車両を完全に停止させてから、キーをオフにしてエンジンを停止します。
6. 車両を支えながら、足でサイドスタンドを出して車両を立て、メインキーを抜き取ります。

▲ 警告 ▲

走行直後のエンジンやマフラーは非常に熱くなっています。車両を駐車する場所は、通行人や子供が車両に触れて火傷を負うことのないよう気を付けましょう。

車両が傾いたり、倒れる恐れがありますので、坂道や地面が柔らかい場所には駐車しないようにしてください。

運転の仕方と乗車時の注意

慣らし運転

初めの1000km（慣らし運転中）までは、スピードを最高速の75%くらいにとどめて走るようにしましょう。

スロットルを全開にすることは避け、緩急つけた開閉を繰り返すようにして慣らしましょう。

1000kmを超えたら、徐々にスピードを上げて行きながら、さらに慣らします。

注 意

オートバイの可動部は、慣らし運転によってそれぞれのパーツが相互に、より適合し硬着していきます。オートバイの耐久性と効率性は、この慣らし運転中のケアに大きく左右されると言えます。ゆっくり走るのではなく、操作はソフトにより注意深い走りをするのがよい慣らし運転となります。この期間中は、車両のパフォーマンスの3/4ほどで運転するようにしましょう。追い越しや、急こう配の坂道を上るなど、スロットルを大きく開けなければならない場合は、極力開けている時間を短く抑えるようにしましょう。

最初の走行1000kmを超えたら、エンジンオイルを交換してください。オイルは、推奨のものを規定量使用するようにしてください。

各パーツが最適に調整され、より良い性能を発揮し、また長持ちさせるためには、1000kmの慣らし運転中に無理な運転をしないことが必須です。

慣らし運転の最中は、以下の事前注意をよく考慮するようにしましょう：

- エンジン始動後は、スロットルの開度の3/4以上を超えて無理にスロットルを開けることのないよう（1速の場合）、ゆっくりと暖機運転をしてください。
- 長い区間を走る場合、スロットルを長時間全開にしたままにせず、緩急をつけながら走るようにしましょう。

- 急な坂道を上るときは、ギアをローギアに落としてパワーを確保してのぼりましょう。
- 長時間走行のあとは、エンジンを急に止めず、速度を最低に落として数秒間走行してから停止させるようにしましょう。
- 期間中は、常に、オイルや燃料、ブレーキ液の漏れがないことを確認しましょう。
- 車両から異常なノイズが聞こえる場合は後回しにせず、すぐにその原因を特定するようにしてください。

注 意

車両を安全に、良好な状態に保つには、いかに正しいメンテナンス、定期的な点検、調整、潤滑を行うかにかかっています。以下の項目では、それらを適切に行うための方法を紹介しています。

⚠ 警告 ⚠

排出ガス制御装置およびシステムの保守整備や交換、再設定は、認定を受けた修理工場（BRIXTON正規販売店）以外では行うことができません。メンテナンスや修理は、必ずBRIXTON正規販売店にご相談ください。

スパークプラグ

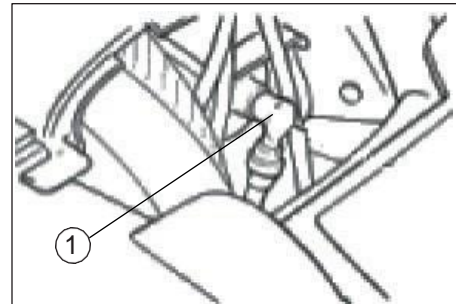
スパークプラグはとても重要なエンジンコンポーネントの一つであり、また容易に点検可能なパーツでもあります。

プラグは、使用していくと熱と堆積物により徐々に劣化していきますので、メンテナンス表に従って点検、交換をしましょう。また、スパークプラグの状態がエンジンの状況を左右することもあることを覚えておきましょう。

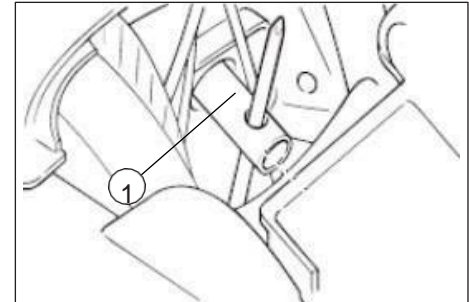
スパークプラグは、車両の前方・右側に位置しています。

スパークプラグの点検

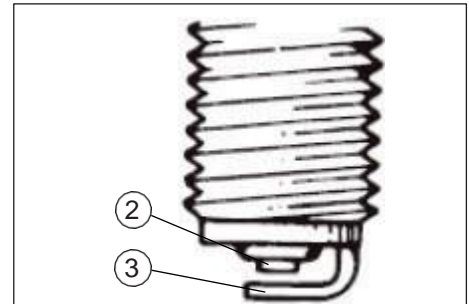
1. スパークプラグキャップ (1) を外します。



2. スパークプラグをスパークプラグレンチ (1) で取り外します。



3. スパークプラグの中心電極 (2) 周辺の「絶縁体が、明るい褐色（通常走行時の好ましい色合い）であることを確認してください。



定期点検と簡単な修理

注 意

スパークプラグ電極の色合いが、明らかに異なっている場合は、エンジンが不適切な状態のまま作動している可能性があります。このような場合は、自己診断しようとせず、必ずBRIXTON正規販売店にご相談ください。

プラグの電極の腐食や、過度のカーボン、その他の付着物が無い点検し、必要な場合は交換してください。

スパークプラグの仕様

D8RTC

▲ 警告 ▲

指定の仕様のプラグ以外はご使用いたしません。
仕様の異なるプラグのご使用は、エンジンに損傷を与える恐れがありますので、やめましょう。

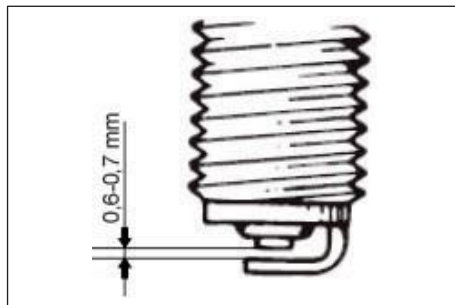
- ゲージでプラグのギャップを測定し、必要に合わせて仕様に合わせましょう。

スパークプラグガスケットの表面と合わせ面を清掃し、プラグのネジ山に付着した汚れを拭き取ります。

- スパークプラグレンチでプラグを取り付け、指定のトルクで締め付けます。

ギャップの適正值

0.6 - 0.7 mm



▲ 警告 ▲

プラグを差し込み、取り付ける（締め付ける）際のトルクにご注意ください。
ご自身での交換、取り付けに不安のある方は、BRIXTON正規販売店にお問い合わせください。

エンジンオイル

乗車前には、必ずエンジンオイルレベルを確認してください。エンジンの寿命を延ばすためにも、高品質の推奨オイルを使用し、交換はメンテナンス表に従ってください。

エンジンオイル点検

- エンジンを始動させます。
- センタースタンドを立てて車両を固定します。
- 約3分間ほどエンジンを可動させたのち、エンジンを止めて約1分ほど待ちます。
- オイルディップスティックを回しながら抜き取り、乾いた布でスティックをよく拭きとってから、再びスティックをねじ込まずにまっすぐ差し込んで引き抜き、オイルレベルを確認します。液レベルの適正值は、maxとminマークの間です。
- 点検後、ディップスティックを回し込んでしっかりと差し込みます。

エンジンオイル容量

1.0 L

推奨エンジンオイル

MOTUL 5100 4T
SAE 10W-40

⚠ 警告 ⚠

エンジンオイルは、給油の度に確認するのが理想的です。

注 意

埃の多い環境や、寒冷地、路面状態が悪い状況下では、オイルの劣化が通常より早くなりますので、オイルを交換する頻度はより多くなります。

オイル交換

エンジンオイルの補充はいつでも可能ですが、オイル交換と、オイルフィルターの交換に関しては、BRIXTON正規販売店に依頼して行うことをお勧めします。

⚠ 警告 ⚠

フィルターハウジング内に異物が入らないように注意しましょう。
タイヤやホイールに、オイルが付着しないように気を付けてください。

燃油フィルター

燃油フィルターは、燃料タンクの下にある燃油栓の横にあります。ガソリンが漏れる恐れがあるため、燃油フィルターの取り扱い作業は非常に危険であることを忘れてはなりません。

注 意

交換作業は、BRIXTON正規販売店に依頼して行うようにしましょう。

エアフィルター



エアフィルターの交換は、メンテナンススケジュールに従い、正しく行ってください。

定期点検と簡単な修理

酷く湿った、または埃の多い地域をお乗りになる方は、より頻繁にエアフィルターの交換が必要となります。

注 意

エアフィルターの清掃は、乾燥した状態で行うか、特別な洗浄液のみを使用して行ってください。

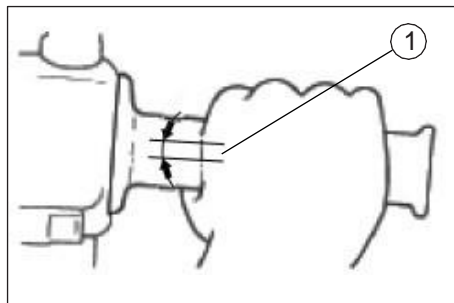
エアフィルターエレメントがエアフィルターケースに正しく収まっていることを確認してください。

エレメントがケース内に適切に収まっていないと、ピストンおよびシリンダーが過度に摩耗する恐れがあります。必要に応じて、BRIXTON正規販売店にエアクリナーの交換を依頼してください。

ECU (エンジン・コントロール・ユニット)

ECUは、エンジンと排出ガス制御システムの重要な部分で、非常に高度な調整が必要なパーツです。ECUの調整は、専門の知識を持つ、BRIXTON正規販売店にお任せください。

スロットルケーブルの遊び



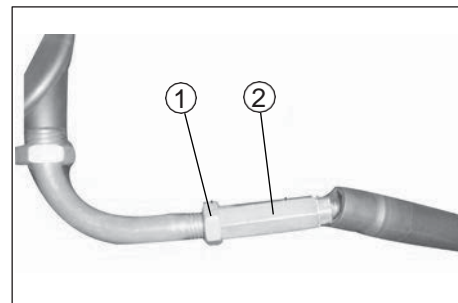
スロットルケーブルの遊び (1) の適正値は、1.5 ~ 3.5 mm です。

注 意

スロットルケーブルの遊びは、定期的に点検し、必要に応じてBRIXTON正規販売店にて調整を行ってください。

スロットルケーブルの遊びの調整

1. ロックナット (1) を緩めます。
2. 調整ナット (2) を回し、遊びを調整します。
3. 調整ナット (2) で調整した後、ロックナット (1) をしっかりと締めます。



クラッチの遊び

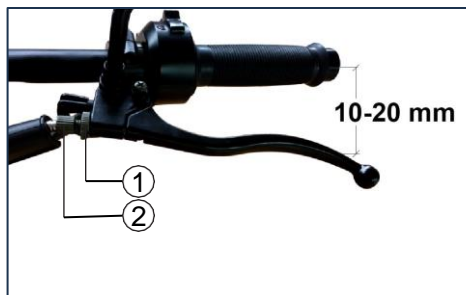
クラッチの遊びの適正值は、
10-20mmです。

注 意

クラッチの遊びは定期的に点検し、必要に応じてBRIXTON正規販売店にて調整を行ってください。

クラッチの遊びの調整

1. ロックナット (1) を緩めます。
2. 調整ナット (2) を回して適正值に調整します。
3. 調整ナット (2) で調整した後、ロックナット (1) をしっかりと締めます。



タイヤ

車両の性能、耐久性、安全性を最大限に引き出すためにも、指定タイヤについて以下の点を十分にご留意ください。

タイヤの空気圧

乗車前には必ず、タイヤの空気圧を確認し、必要に応じて調整を行ってください。

▲ 警告 ▲

タイヤ空気圧は、タイヤ温度が冷えている状態（周囲、または外気温と等しい場合）で点検し、調整するようにしてください。

タイヤ空気圧は推奨値がありますが、走行状況に応じて調整が必要な場合がありますので、詳しくはBRIXTON正規販売店までお問い合わせください。

タイヤ空気圧

フロントタイヤ	2,5 bar
リアタイヤ	2,5 bar

▲ 警告 ▲

車両に過度の荷重（積載などにより）がかかると、タイヤやブレーキ、ステアリングにかかる力が設計値より高くなり、事故や故障につながる恐れがありますので絶対にやめましょう。

積載量を守って乗車することは、運転者の安全はさることながら、車両の性能を有効に使用して乗車するためにも非常に重要です。ステアリングのコントロール性能を損なわないためにも、荷物は車両にしっかりと固定し、重い荷物は中央に、さらに左右均等に重さを配分して積載するようにしましょう。

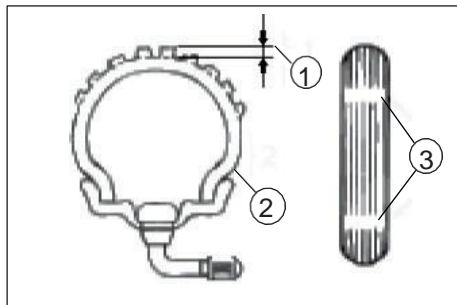
最大積載量*

170 kg

*運転者や同乗者の体重、アクセサリー類を含めた荷物の積載量。

定期点検と簡単な修理

タイヤの点検



1. タイヤの溝の深さ
2. タイヤの側面
3. 摩耗インジケーター

▲ 警告 ▲

タイヤは、毎乗車前に必ず点検しましょう。十字の摩耗線（溝の深さの最小値）が出ている場合や、釘やガラス片が刺さっている場合、また、側面にひび等が入っている場合は、速やかにBRIXTON正規販売店でタイヤを交換してください。

注意

タイヤ交換目安の値（摩耗による）は、お住いの国により異なる場合がございます。オーナーズマニュアル記載の値は、技術的な基準値であり、お住いの地域の法的な値とは異なる場合があります。

タイヤ溝深度（技術的値）

フロントとリア: 最低値 1,6 mm

▲ 警告 ▲

摩耗したタイヤで走行することは、違法であることもさることながら、根本的な車両の安定性を損ない、車両のコントロールを失う恐れがあります。摩耗や損傷のあるタイヤは、速やかにBRIXTON正規販売店で交換してください。

タイヤの寸法（サイズ）

フロント
タイヤ：100/90-18
（任意：4.00-17）
リア
タイヤ：120/80-17
（任意：4.50-17）

リム

車両の性能、耐久性、安全性を最大限に引き出すためにも、指定ホイールに関しては以下の点にご注意ください：

- 毎走行前には、必ずホイールのリムにひび割れや湾曲、ゆがみが生じていないか点検しましょう。損傷が見つかった場合は、BRIXTON正規販売店にて速やかにホイールの交換をしてください。変形やひび割れのあるホイールは必ず交換することとし、どのような小さな修理も自己判断で行わないでください。
- タイヤ又はホイール、いずれかが交換が行われた場合は、必ずホイールバランスをとってください。

バランスのとれてないホイールはハンドリングの特性を悪化させタイヤの寿命を縮めます。

- タイヤの最適な性能を発揮させるためにも、交換直後のタイヤは表面を慣らす必要があるため、慣らしが済むまでは、速度を控えめに抑えて走行してください。

ブレーキ

▲ 警告 ▲

ブレーキレバーを引いた時、スポンジのように軽く曖昧な感触があるときは、油圧システム内に空気が浸入している可能性があります。そのような場合は車両を走行させずに、速やかに販売店にて修理を行ってください。
油圧システム内に空気が入り込むと、ブレーキ性能の著しい低下、ひいては制御不能に陥り、事故につながる恐れがあります。

ブレーキの遊び

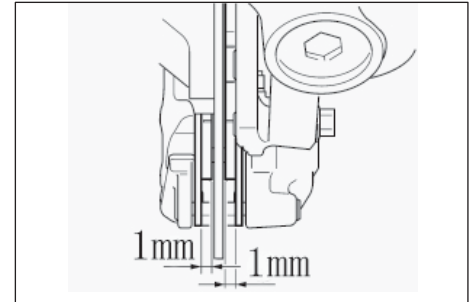
- フロントブレーキの遊びの適正値は 10-20mm です。
- リアブレーキの遊びの適正値は、20-30mm です。

注 意

ブレーキレバーに遊びがないと、ブレーキパッドが常に引きずられる恐れがあります。定期的遊びの点検を行い、必要に応じて調整をするようにしましょう。

ブレーキパッド

フロントブレーキパッドとリアブレーキシューは、メンテナンス表や整備点検票に記載されている周期（間隔）で、必ず点検・メンテナンスを行ってください。



ブレーキパッド

それぞれのブレーキパッドには、摩耗インジケータが付いていますので、ブレーキを分解することなく摩耗の状態を確認することができます。点検方法は、ブレーキをかけてパッドを動かしながら確認します。

摩耗インジケータがブレーキディスクに接触しそうなほど摩耗している場合は、BRIXTON正規販売店にてブレーキパッド一式を交換してください。

定期点検と簡単な修理

ブレーキフルード（ブレーキオイル）

▲ 警告 ▲

ブレーキフルードが不足していると、システム内に空気が入りやすくなり、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。走行前には必ず、ブレーキフルードの量（液面の位置）を点検し、必要に応じて補充してください。

液レベルが規定値より低い場合は、その時点ですでに何らかの異常、またはパッドの摩耗が進んでいる可能性がありますので、併せてブレーキパッドの摩耗や、システムからの液漏れも確認しましょう。液レベルを点検するときは、ハンドルバーを動かしてマスター・シリンダーの上端を水平にしてから行ってください。指定（推奨）品質以外のブレーキフルードを使用すると、ゴムシールの劣化を引き起こし、液漏れが生じる恐れがあります。ブレーキフルードは、必ず指定（推奨）品質のものを使用してください。

異なる種類のブレーキフルードを混ぜると、有害な化学反応を起こし、ブレーキ性能を損なう恐れがあります。液の補充の際も、必ず同じ種類のブレーキフルードを補充してください。

マスターシリンダー内に水が浸入すると、ベーパーロック現象（液体が沸騰して生じた泡により、流動や圧力が著しく阻害される現象）を引き起こす可能性がありますので、充分注意してください。

ブレーキフルードは、塗装面やプラスチック部品を劣化させる恐れがあります。液をこぼした場合は、速やかに清掃してください。

通常、ブレーキパッドが摩耗するにつれて、ブレーキフルードレベルも徐々に低下してきますが、液レベルが急激に下がるようなときは、販売店で点検を行ってください。

ブレーキフルードの交換

▲ 警告 ▲

定期メンテナンス表に従い、BRIXTON 正規販売店にて定期的にブレーキフルードを交換してください。

ブレーキフルードの仕様

MOTUL
DOT 3&4 ブレーキフルード
・未開封（使用済みでない）
のものを使用

定期メンテナンスと簡単な修理

ケーブル

乗車前には必ず、全てのコントロールケーブルの動作や状態を点検し、必要に応じて注油（潤滑）を行ってください。

ケーブルに損傷があったり、動作がスムーズでないときは、販売店にて点検・交換をしましょう。

▲ 警告 ▲

ケーブルのハウジング（外装）に損傷があると、内部に錆が生じてケーブルの動作に支障をきたす恐れがあります。損傷が見つかった場合は、速やかに販売店にて点検・交換を行ってください。

スロットルグリップとケーブル

毎乗車前に、必ずスロットルグリップの動作を確認しましょう。

また、メンテナンス表に従い、定期的にケーブルへの注油（潤滑）を行ってください。

ブレーキレバーとブレーキペダルの潤滑

メンテナンス表に従い、ブレーキレバーやブレーキペダルの可動部（回転部）には、定期的に注油（潤滑）を行ってください。

サイドスタンド / メインスタンド

注 意

サイドスタンド/メインスタンドは、毎乗車前に点検し、必要に応じて可動部や、特に金属同士の接触面に注油（潤滑）を行ってください。

▲ 警告 ▲

注油（潤滑）を行っても、サイド/メインスタンドの可動に異常が見られる場合は、販売店にて点検・交換を行ってください。

フロントフォーク

フロントフォークの点検は、メンテナンス表記載の内容に従って、以下のように行ってください。

▲ 警告 ▲

点検の最中、車両が転倒することのないように、しっかりと支えてください。

1. 車両を平行にまっすぐ立ててください。
2. インナーチューブに、傷や損傷、液漏れがないか確認します。
3. フロントブレーキをかけ、ハンドルバーを数回押し下げて、サスペンションの状態を確認します。

▲ 警告 ▲

フォークが損傷している場合は、BRIXTON正規販売店にご連絡ください。フォークをクリーニングする際は、洗浄剤がタイヤやブレーキに接触しないように注意して行ってください。

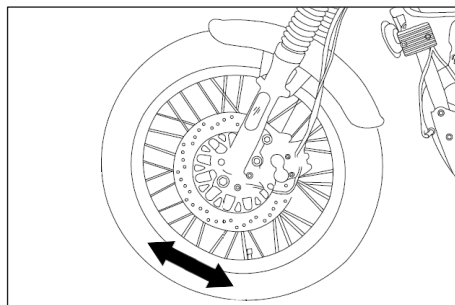
定期メンテナンスと簡単な修理

ステアリング

▲ 警告 ▲

ステアリングベアリングが摩耗、あるいは緩んでいると非常に危険です。ステアリングの動作状況は、メンテナンス表に記載の周期で、必ず定期的に点検してください。

1. メンテナンススタンド等の上に車両を置き、前輪を地面から浮かせます。
2. フロントフォークの一番下の端をつかんで、前後に動かしてみる。
3. もしその時フォークが動く（遊びが感じられる）ようであれば、BRIXTON販売店にて、ステアリングの点検・修理を行ってください。



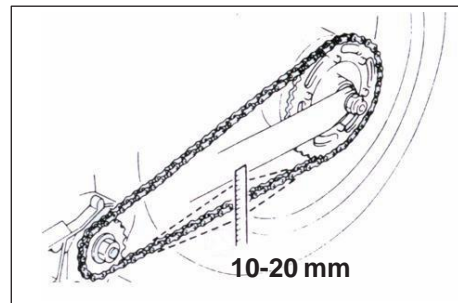
ホイールベアリング

フロント・リアのホイールベアリングは、必ずメンテナンス表記載の周期で点検を行ってください。

注意

ホイールハブに遊びがある場合、またはホイールがスムーズに回転しない場合は、販売店にてホイールベアリングの点検を行ってください。

ドライチェーン



チェーンの張力（テンション）が強すぎると、二次動力伝達部（チェーン、チェーン・スプロケット、トランスミッション、後輪のベアリング）に過度のストレスがかかり、早期摩耗や、ひいてはチェーンの破損につながる恐れがあります。

一方で、チェーンにたるみがありすぎると、チェーンホイールからチェーンが外れる恐れがあります。

その結果、リアホイールやエンジンに損傷を与える恐れがあり、さらには車両のコントロールを失うことになりかねません。

定期メンテナンスと簡単な修理

ドライブチェーンの張り

1. アクスルナットを緩めます。
2. カウンターナットを緩めます。
3. 左右の調整ネジを同じくらいに回します。
4. タイヤ左右の調整ネジを回し、正しい遊びに調整します。ドライブチェーンの適正な遊びは10mm～20mmです。
5. カウンターナットと、フランジナットをしっかり締めます。

バッテリー

▲ 警告 ▲

バッテリーに継続してダメージを与える恐れがありますので、ベントシールは絶対に剥がさないでください。

バッテリー液には硫酸が含まれており、皮膚に触れると重度の火傷を引き起こします。

バッテリーの近くで作業をするときは必ず目を保護するようにし、他、皮膚や衣服にも触れないように充分注意してください。

万が一、バッテリー液に触れてしまった場合は、直ちに応急処置を行ってください。皮膚や目にバッテリー液が付着した場合は、付着部位を多量の水で洗い流します。また、誤って液を飲み込んでしまった場合も、多量の水を飲んでください。いずれの場合も、一刻も早く医療機関を受診してください。

バッテリーは爆発性の水素ガスを発生するものです。屋内でバッテリーを充電する際などは、発火物や喫煙具などをバッテリーに近づけないように注意し、十分な換気を心掛けるようにしてください。本製品を含め、全てのバッテリーは、常にお子様の手の届かない場所に置き、取り扱うようにしてください。

バッテリーの充電

バッテリーが放電しているようであれば、速やかに販売店にて充電を行ってください。電源を必要とするオプションアクセサリ等を車両に付けている場合は、バッテリーの放電が速まる傾向にありますので、留意しましょう。

バッテリーの保管

- 車両を一ヶ月以上使用しない場合は、車両からバッテリーを取り外し、完全に充電してから冷暗所に保管するようにしてください。
- バッテリーを2ヶ月以上保管する場合は、少なくとも月に一回は点検し、必要に応じて満充電しましょう。
- 再使用する前には、必ず満充電してから使用開始してください。
- 取り付け後は、バッテリーのリード線が、バッテリー端子に正しく接続されていることを確認しましょう。

▲ 警告 ▲

バッテリーの取り扱いに不慣れな場合は、販売店にご相談ください。

注意

放電したバッテリーをそのまま保管すると、バッテリー機能に永久的な損傷を与える恐れがありますので、バッテリーは常に充電した状態で保管してください。

定期メンテナンスと簡単な修理

ヒューズ

ヒューズ交換

1. メインスイッチをオフにして、電源を完全にオフにします。
2. 切れてしまったヒューズを取り外し、規格に合った新しいヒューズを取り付けてください。

⚠ 警告 ⚠

電気系統に甚大な損傷を与え、場合によっては火災の原因となることがありますので、推奨定格以上のヒューズは絶対に使用しないでください。

3. メインスイッチをオンにして、全ての装置が正常に作動するか確認します。
4. 交換後、すぐにまたヒューズが切れる場合は、販売店にて電気系統の点検を行ってください。

灯火類

ヘッドライト

このモデルの車両は、ハロゲンバルブのヘッドライトを装備しています。バルブが切れた場合は、BRIXTON正規販売店にて交換を行い、必要に応じてヘッドライトビームの調整も行うようにしましょう。

ウinker、テール/ブレーキライト

ウinker、テール/ブレーキライトには、全てLEDライトが装備されています。

いずれかのライトが点灯しない場合は、電気回路の不具合が考えられます。BRIXTON正規販売店にご相談ください。

ナンバープレートライト

ナンバープレートライトが点灯しない場合は、カバーを外してバルブを交換するか、販売店に依頼して交換を行ってください。

トラブルシューティング

車両は、工場出荷前に十分な点検を受けてはおりますが、それでもトラブルが発生する可能性は0ではありません。燃料、圧縮、点火システム等に問題があると、エンジンの始動性が悪くなったり、パワーが出なくなったりすることがあります。

以下のトラブルシューティング・チャートは、トラブルが起きたときにセルフ・チェックするための、簡単な手順を示していますが、修理が必要な場合や、専門の道具や技術が必要な場合は、必ずBRIXTON正規販売店にお尋ねください。

修理・交換に使用する部品は、純正交換部品のみを使用してください。模造部品は、形は純正部品のそれと似ていますが、粗悪品であることが多く、耐用年数が短いことにより結果的に高額な修理代がかかることがあります。

▲ 警告 ▲

燃料系統を作業する場合は、絶対に発火物や火器の近くで行わないでください。

トラブルシューティング

トラブルシューティング・チャート

トラブル	原因	対処
スターターボタンを押してもエンジンが始動しない	バッテリーあがり	バッテリーを充電する バッテリー残量（電圧）を確認する 発電機が正常に作動しているか確認する
	ヒューズが切れている	ヒューズを交換する
	スターターリレー不良	スターターリレーを点検する
	スターターモーター不良	スターターモーターを点検する
	ロールオーバーセンサーの誤組付け	ロールオーバーセンサーの位置を確認する
セルは回るがエンジンが始動しない、または始動してもすぐに止まってしまう	ヒューズが切れている	ヒューズを交換する
	アイドリングスピードの設定が正しくない	アイドリングスピードを正しく設定（調整）する
	スパークプラグに汚れが付着している	プラグの清掃を行い、電極の距離（ギャップ）を確認する
	イグニッション・システムの不具合	イグニッション・システムを点検する
	ワイヤーハーネスが摩耗している	ワイヤーハーネスを点検する
	プラグの接触不良	ワイヤーハーネスのプラグを点検する
	ガソリンが入っていない	ガソリンを給油する
	燃料ポンプの不具合	ポンプを点検する
	燃料フィルターの不具合	フィルターを点検する
燃料漏れ	燃料回路を点検する	
エンジン出力が弱い	エアフィルターが汚れている	フィルターを清掃する
	燃料フィルターが汚れている	フィルターを清掃する
	燃料系統の不具合	燃料システムを点検する
	イグニッション・システムの故障	イグニッション・システムを点検する
	バルブクリアランスが少なすぎる	バルブクリアランスを適正に調整する
エンジンのオーバーヒート	（特に真夏など）渋滞等で走行スピードが遅く、走行風でエンジンを冷やせない状態が長く続く	エンジンを止めてクールダウンさせ、渋滞等で長時間の低速運転にならないようにする
オイルの減りが早い	エンジンオイルレベルが高すぎる	余剰オイルを排出する
	シリンダー/ピストンの摩耗	シリンダー/ピストンを交換する
	エンジンの排気ホースが曲がっている	ホースのレイアウトを修正する
エンジン警告灯が点灯している	燃料噴射/電気系統の故障	販売店に連絡し、点検・修理を依頼する

洗車

適切な方法で車両を洗車することは、車両の寿命を延ばすことにもつながります。

洗車をする前に

- マフラーの排出口をビニール袋で覆い、内部に水が入り込まないようにします。走行直後は避け、パーツが十分に冷えてから行ってください。
- 全てのキャップやカバーを閉め、電気系統のコネクター等に、洗車中に水が入らないようにします。

注 意

- 酸性の洗剤は使用しないでください。
- 酸性洗剤は、しつこく根付いているような汚れを落とすときだけに使用するようにし、使用後はすぐに洗いながして乾燥させ、腐食防止スプレーを塗布してください。
- 手入れ方法や使用する洗剤の種類については、このマニュアルの指示に従うようにしてください。

- 洗車によるダメージのリスクを避けるために、水と低刺激な中性洗剤のみを使用して洗車を行ってください。プラスチック部分は、水分を拭き取ったのち、柔らかい布やスポンジで拭いてください。
- 特に、プラスチック部品、塗装部、ヘッドライトガラスなどを、ガソリンや錆落とし剤、ブレーキクリーナーのような強刺激の化学薬品から保護してください。
- コネクターやスイッチ等の電装品、照明、換気ホース、ブレーキシュー、ブレーキのライニングに泡が浸入したり、シールや塗装面、その他表面素材を傷つける恐れがあるので、高压洗浄機やスチームクリーナーは絶対に使用しないでください。

日常のお手入れ

ぬるま湯で泥汚れを落とし、柔らかく清潔なスポンジと中性洗剤で汚れを落としてから綺麗な水で十分にすすいでください。

届きにくい場所には、歯ブラシやボトルブラシを使用して綺麗にしてください。

雨天、海岸、塩分のある道路を走行後の洗車

雨天走行後や海の近く走った後、また、冬季に道路に散布された塩化ナトリウムなどは、水と混ざり合うことでより付着しやすくなり、極めて腐食性を高めます。走行後は、以下の手順に従ってください。

注 意

エンジンやマフラーが冷えるまで待ちます。冷水と中性洗剤で車両を洗浄します（温水は塩による腐食効果が高めるので、使用しないでください）。クロムやニッケルを含むメッキ部分や、金属表面に防錆スプレーを塗布して腐食を防いでください。

洗車後

- 車両を乾かします。
- 防錆のために適切な錆止め対策を講じてください。

洗車と保管

- 塗装面にワックスをかけておきます。

▲ 警告 ▲

- ブレーキやタイヤに、オイルやワックスが付着していないことを確認してください。
- 必要に応じて、ブレーキディスクとブレーキライニングを、ブレーキディスククリーナーで清掃し、タイヤは温水と中性洗剤で洗浄します。
- 洗車後に乗車する際は、ブレーキの利き具合や、タイヤの状態を確認してから走行してください。

保管

短期間(数日間)

湿気のない、涼しい場所に保管します。埃がかからないように、必要に応じてカバーで車両を覆うようにしましょう。

▲ 警告 ▲

車両の保管は、できる限り湿気のない換気の良い場所にしてください。湿気が多い場所は、車両が錆びる原因となります。

長期間(数週間)

車両を洗車します。燃料タンクを錆から守り、燃料の劣化を防ぐために、燃料を満タンにするか、あるいは燃料安定剤を添加して保管します。

防錆(錆の防止)

シリンダーやピストンリングを錆から守るために、以下の手順に従ってください：

- スパークプラグキャップと、スパークプラグを取り外します。
- スパークプラグホール(穴)に、ティースプーン1杯のエンジンオイルをたらしめます。
- スタートボタンを2～3秒押ししてエンジンを数回回転させます(シリンダー内にオイルが行きわたる)。
- スパークプラグをもとに戻し、キャップを被せます。

▲ 警告 ▲

作業中は、スパークプラグが車両の金属部品に接触しないようにしてください。全てのケーブル、レバー、ペダル、フットレスト、サイドスタンド等の可動部分に、説明のとおり注油(潤滑)してください。

- タイヤの空気圧を点検して適正な空気圧に調整したのち、可能であれば両輪とも地面から浮かせて車両を固定します。
- 無理な場合は、ダメージを軽減するためにも、タイヤを毎月少しずつ回転させ、常に同じ場所が設置することのないようにします。
- 湿気の侵入を防ぐために、ビニール袋でマフラー口を覆います。
- バッテリーを取り外し、満充電しておきます。その後、涼しく湿気のない場(0℃～30℃)所に保管し、少なくとも2ヶ月に一度は再充電するようにしましょう。

エンジン


タイプ	空冷、4-ストローク、OHC
シリンダー配列	前傾単気筒
排気量	125 cm ³
圧縮比	9,3 : 1
始動方法	セル式
潤滑	ウェットサンブ

オイル

エンジンオイル

タイプ	MOTUL 5100 4T SAE 10W-40 推奨
容量	1,0 L

燃 料

タイプ	無鉛ガソリン		
	オクタン価 95 以上		
燃料タンク容量	Cromwell 125 Felsberg 125 Sunray 125	Felsberg 125 XC Rayburn 125	
	14,0 L	11,5 L	



!! バイオエタノール燃料 - E10 使用不可 !!

スパークプラグ

タイプ	D8RTC
スパークプラグギャップ	0,6 - 0,7 mm

クラッチ

クラッチタイプ	多機能プレートクラッチ
変速機タイプ	5-速 常時噛み合い式変速機

シャシー

タイプ	スチール管
-----	-------

タイヤ

	Cromwell 125 Felsberg 125 Felsberg 125 XC	Sunray 125 Rayburn 125
フロントタイヤ		
タイヤ	100/90-18	4.00-17
リム	2.50×18	2.50×17
タイヤ空気圧	2,5 bar	2,5 bar
リアタイヤ		
タイヤ	120/80-17	4.50-17
リム	3.00×17	3.00×17
タイヤ空気圧	2,5 bar	2,5 bar

仕様

ブレーキシステム

タイプ	油圧式シングルディスクブレーキ
動作 (フロント)	右手 & 右足 : CBS 右手 : ABS
動作 (リア)	右足 : CBS あるいは ABS
ブレーキフルード	
タイプ	MOTUL DOT 3&4 Brake Fluid 推奨

サスペンション

フロントサスペンション	
タイプ	テレスコピックフォーク
リアサスペンション	
タイプ	ダブルショックアブソーバースウィングアーム

電気系統

イグニッションシステム	ECU
充電システム	マグネット発電機

バッテリー

電圧 / 容量	12 V / 10 Ah or 12 V / 9 Ah
---------	-----------------------------

灯火類

ヘッドライト	12 V, 35 W / 35 W
テールライト / ブレーキライト	LED
フロントウィンカーライト	LED
リアウィンカーライト	LED
ナンバープレートライト	LED

ヒューズ

メインヒューズ	15 A
---------	------

寸法

	Cromwell 125	Sunray 125	Felsberg 125	Felsberg 125 XC	Rayburn 125
長さ	2020 mm	2020 mm	2020 mm	2070 mm	2020 mm
幅	850 mm	760 mm	850 mm	850 mm	760 mm
高さ	1105 mm	1060 mm	1105 mm	1120 mm	1060 mm
ホイールベース	1320 mm	1320 mm	1320 mm	1320 mm	1320 mm

荷重

通常走行時 (正常走行時)	134 kg
最大荷重 (フロントアクスル)	92 kg
最大荷重 (リアアクスル)	212 kg
最大積載量 (運転者、同乗者、荷物)	304 kg



Copyright ©2020

無断複写・転載を禁じます。

このオーナーズマニュアルには著作権があります。

著者の書面による許可なく、機械的、電子的、
またはその他の形式で複製することを禁じます。

著作権は、以下の企業が所有しています：

KSR Group GmbH
Im Wirtschaftspark 15
3494
Gedersdorf
Austria

日本国内販売元：
MOTORISTS LLC
モータリスト合同会社

製品および仕様は予告なく変更される場合があります。

